

**1** 函館市臨海研究所 (沖之口役所跡)



旧函館西警察署庁舎を、水産・海洋関連産業の技術の高度化や水産振興に貢献する研究施設として再生。かつては、入港する船から税金を徴収する沖之口役所であったほか、函館水上警察署として海上を取り締まる役割を果たしていた。

**2** 姿見坂 (ペリー会見所跡)



幕末から明治初期には、坂の上に遊郭があり、艶やかな遊女の姿が見られたことからこの名がついた。また、江戸時代にはペリー一行と松前藩との会談が行われた山田屋寿兵衛宅があった。

**3** 大黒湯 (平成22年7月閉店)



現住所の旧町名・大黒町から名づけられた大黒湯は、明治末期創業の歴史ある銭湯で、北洋漁業やイカ釣り船の漁船員が列をなして通った時代もある。

**4** 大黒魚菜市场



昭和36年(1961)創業の大黒魚彩市場は、商店が軒を連ねる大黒通りの一角にあり、かつては大黒販売と呼ばれ規模も大きく大変な賑わいを見せた。現在の市場は、規模は小さくなったものの、昔ながらの人情味あふれる市場として多くの市民に親しまれている。

**5** 大正湯



大正3年(1914)創業の大正湯は、左右対称で、淡いピンク色の外観が印象的。映画「パコダテ人」の主人公の家として登場しており、現在も営業中である。

**6** 旧ロシア領事館



かつてのロシア領事館で、赤レンガの壁と白い漆喰の窓枠で縁取られたコントラストが印象的な建物。現在は外観見学のみとなっている。

**7** 幸坂



長く急勾配なこの坂の頂上からは、函館港を一望できる。かつて海峡を行き交っていた青函連絡船が最後の航海を飾った際、この坂から見送る市民の姿が、全国に発信された。

**8** 弥生坂



かつては浄玄寺(現東本願寺函館別院)、称名寺、実行寺などが立ち並んでいたことから「寺町の坂」と呼ばれていた。坂沿いにある弥生小学校は、石川啄木や亀井勝一郎など多くの文学者や芸術家とゆかりのある学校である。

てくてく坂道 姿見坂・弥生坂編 ~懐かしの時代へタイムスリップ~

所要時間 80分 距離 2.3km 消費カロリー 240kcal ※消費カロリーはおおよその目安です。



撮影オススメポイント!!

- 喫茶・休憩
- おみやげ・売店
- 食事処
- トイレ
- 多目的トイレ
- 駐車場
- 元町・ベイエリア周遊号バス停
- バス停

18本ある坂の最西端の坂道。魚群がよく見えたことから名付けられました。

蔵造りの雑貨店や飲食店が立ち並び

寺社群(称名寺、実行寺 東本願寺船見支院)

明治34年に建築された2階建土蔵造りの店舗で、国の重要文化財に指定されています。

中華会館は純中国様式の建築として日本に現存する唯一の貴重な建物です。

ペリー艦隊来航時に水兵2人を埋葬したことが始まりとされ、明治3年に正式に外国人墓地と定められました。

山裾の西側に位置し、函館湾を一望出来る眺めは最高!映画ロケにも使われています。

弥生坂を上がって、右に曲ると明治2年(1869)の箱館戦争で戦死した新政府海軍慰霊の墓所があります。碑の石は豪邸「高田屋御殿」の庭園に据えられていた「高田屋の亀石」と呼ばれていた石の一部です。

坂の上から港に向かっての写真が多い中、基坂は坂下から函館山に向かってのアングルがオススメです。

**函館の坂道**  
異国情緒漂洋館や、教会、和洋折衷の建物とともに函館港から函館山に伸びている幾本もの坂道巡りは、西部地区散策の楽しみの一つです。函館の街は明治11年(1878)、12年(1879)の大火で、広範囲に焼失したため、街の復興にあたり坂道の直線化と、消火を助ける防火線として基坂・二十間坂のような幅広い坂道の整備をしました。なげなくそこに佇む西部地区の坂道は、度重なる大火に遭遇しながら、そのたびに復興し進化してきた函館の街の証の一つともいえます。

夏には階段を生かしたステージでイベントが催されます。